

# こころをつなぐ まちづくり

人権シリーズ vol.39



## 次郎に会いました!

7月9〜10日、山口県スポーツ文化センターで西日本各地より4、500人が参加しての第34回部落解放・人権西日本夏期講座が開催されました。

会場の2階ロビーで人権習慣巡回写真展が開催されていました。この写真展は、被差別部落の出身であることを明らかにした13名と1組の普段の仕事場や、日常生活の生き生きとした表情を取材撮影したすばらしいストーリーのある写真で、なぜ人が人を差別するのだろうか?と問いかける内容でした。

初日の午後の講演は、村崎太郎さんの「猿まわし復活にかけた思い」と題しての講演でした。みなさんも知っている「太郎次郎」の太郎さんです。「反省猿次郎とコンビを組み、戦後一時途絶えていた猿まわしを復活させ「笑っていいとも!」等のテレビ出演で反省ポーズが一躍有名になりました。今ではアメリカにも進出し、全国公演や講演会、執筆活動を行っています。



第34回部落解放・人権西日本夏期講座記念  
(2009年7月9日〜10日・山口)

▲四代目の手形をいただきました!  
かわいい手形です。

村崎さんの妻であり、フジテレビプロデューサーの栗原美和子さんが昨年出版した「太郎が恋をする頃までには…」(幻冬舎)では主人公が被差別部落の出身であることを告白、これは村崎さん自身を重ね合わせた姿でもあります。彼が被差別部落出身であることは地元のみならず知っていることですが、東京を活動の拠点としている村崎さんの周囲では、それを知らない人も多いためです。村崎さんは「僕は、東京で活動をしながら、部落で生まれたことを、心の奥底に隠して生きてきました。でも、もう隠してはいたくない」と公表しています。みなさんが村崎夫妻だったらどうか考えてみてください。最後は2人のト

クで「昔は部落差別があったから悲しい物語が作れたよね」と言える日が、早く来てほしい」と話していたのがとても印象に残りました。

2日目は「部落問題は、いま若者からのメッセージ」と題してパネルディスカッションがありました。パネリストの方たちが自分が被差別部落の出身であることを友達・恋人に告げる時の心境や悩みも話していました。カミングアウト(出自を明らかにする)することに対し未だに家族や親族からの反対もあるそうです。今回の西日本夏期講座の壇上で部落問題についてディスカッションをすることを家族には話していない方もいました。まだ部落問題はなくなっていないのだということを変えて思い知らされました。「部落問題」という言葉は英語では「burakuproblem」と表記されると聞いています。この日本固有の人間差別がなくなる日がくることを参加している人達みんなが感じたのではないかと思います。

今年ももうしばらくすると行政区別人権学習会が始まりま

す。みなさんも人権を身近な問題として捉え、多くの人達に参加していただければと思います。

文責

教育委員会国見分室 伊美



▲2日目のパネルディスカッションの様子

### お知らせ

人権ビデオ上映会(隣保館)

テーマ・平和

8月7日(金) 午前10〜12時

8月20日(木) 午後2〜4時

※今月は子どもが対象です。

同和問題学習会(隣保館)

8月21日(金) 午後2〜4時

問い合わせ 国東市隣保館

☎0978-1722